

偏差値が高いだけの人ではなく、頭の良い人が合格する時代

2012年に、私と共にこの久留米自習室を立ち上げた先生がおられました。現在、入院後のリハビリ療養中ですが、大学受験5教科教えられる先生でした。2004年頃に私と同じ前職で、「九州大学合格間違いなし！」という女子生徒を教えられていました。しかし、その生徒は不合格となっていました。その先生は、数学にこだわりがあり、九大と言え「数学を捨てに行かないと合格できない」という事に反する指導だったと聞いています。大学受験は「偏差値が高い生徒」が合格するのではなく、「頭が良い生徒」が合格するようにできています。過去問を見て、「数学は難しすぎる！捨てよう！！」と判断できる頭の良さが合格につながります。さて、その生徒さんは、後期試験で佐賀大学に合格し、首席で卒業、大学院に進み佐賀大学の代表研究者として、修士論文も首席終了でした。彼女が夢にまで見ていた製剤会社の研究員となり、横浜の研究所に研究派遣されるほどになりました。数学を勉強しなくても合格できる九州大学理系に進んでいたなら、できなかった事ですね。

ここまで読みますと、「大学受験システムの不備があっても、大丈夫ではないか？」と思われるかもしれませんが、彼女が特別なだけです。普通は、第一志望に合格できなかっただけで、勉強しなくなります。九州大学の学食アンケートで、面白い結果が出ています。この前の全国の大学学食ランキングで、テレビで九大がトップ3ぐらいに入っていたでしょうか？それぐらいおいしい九大の学食なのですが、「おいしくない」と答える生徒がいて、その共通項を分析したそうです。

すると「九州大学が第一志望ではなかった」という結果が出たそうです。本当は、東大や京大などを受けるつもりだったが、センター試験で失敗して、仕方なく九大に通う事になった。そうなる、なんでも否定的になってしまうわけです。2014年のセンター試験で、久留米自習室から東大文Ⅱに合格した生徒でも、古文は32点、漢文は38点と、6割～7割しか取れないのが現実です。頭の良い生徒は、センター試験の国語は難しすぎるから捨てるわけです。偏差値は高いけど、そういうところに気づかない生徒はセンターで高得点を取りに行くのは難しいのです。そして優秀ではないが、そういう情報を与えられる生徒たちは、どんどん東大などに入れるわけです。日本の中枢にいる私の教え子たちが「優秀な学生が東大などに居ない」と言うのですが、それは仕方ないでしょう。「どの教科のどの部分に、どれぐらいの時間をかけるべきか？」それを理解しようとしなくて、闇雲に勉強していますから、偏差値の高いだけの生徒は合格できていません。A判定やB判定の生徒たちが、日本の中枢に進めない、それが現実です。

逆に、私が教えている生徒たちは、D判定やE判定でも毎年面白いように合格しています。

2014年のセンター試験で、佐賀大学経済学部合格した生徒は、古文が0点でした。2013年のセンター試験で、立命館アジア大学合格した生徒は、古文が5点でした。東大に合格するような生徒でも取れないものは、最初から捨てるのです。

努力をした人と、努力をしていない人の差が出ない科目は「勉強するな！」というセンター試験側からのメッセージだと理解する事です。偏差値が高いだけの人では合格できないのです。頭が良い人だけが合格します。

久留米自習室はまず、頭が良くなってもらう事から取り組んでいます。